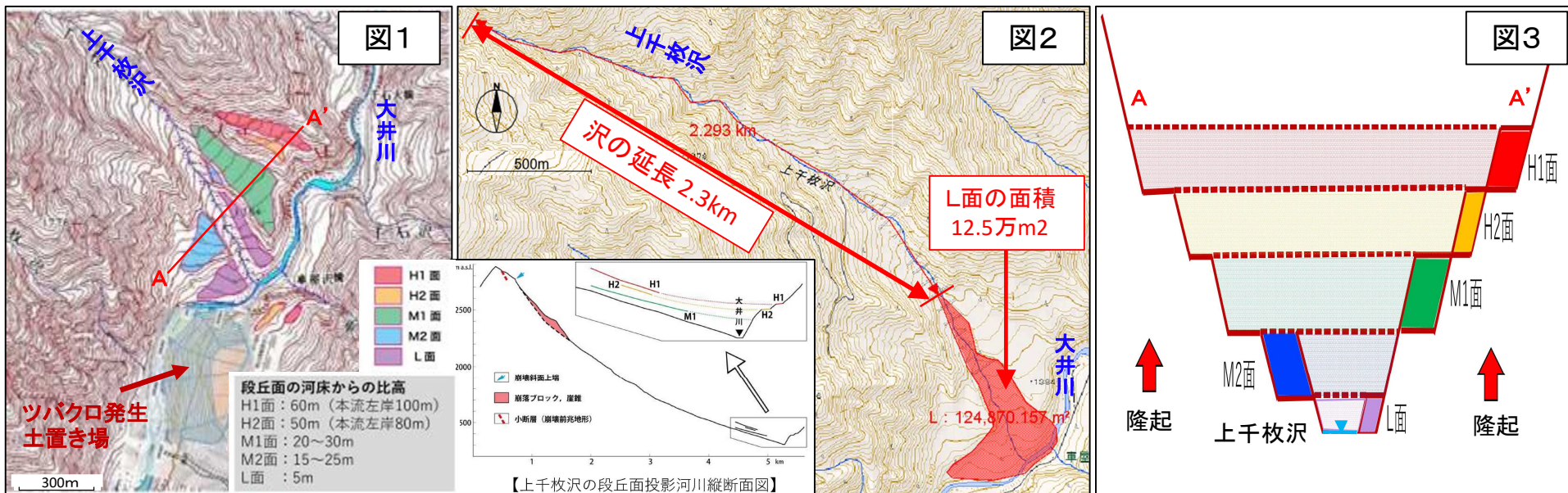


感度分析における崩壊土砂量の設定

- ①当地域は、図1のように、上千枚沢と大井川の合流点に数段の段丘化した土石流堆が見られる。
(図3の横断面図のイメージ)
- ②今後起きると想定される土石流の規模に一番近いと思われる段丘面を図1のL面相当と判断した。
- ③図2のとおり計測したL面の面積12.5万m²、及び層厚5mから、62.5万m³の堆積土砂量を算出した。
- ④上千枚沢上流部の谷底堆積物を、図2のとおり計測した沢延長2.3km、幅約50m、層厚5mから、57.5万m³を算出した。
- ⑤上記③と④で算出した崩壊土砂量は計120万m³となるが、シミュレーションに反映できない上千枚沢流域から流出する土砂量を考慮し、千枚崩れの崩壊土砂量を安全側にたって150万m³として設定した。



上千枚沢の段丘面区分

地形を判読した結果

上千枚沢の土石流堆の段丘イメージ